

資料6

東北観光アドバイザー会議

# 今後の観光振興への課題と 対応策について

2016.1.22

一般社団法人 日本旅行業協会  
副会長 戸川 和良

# Index

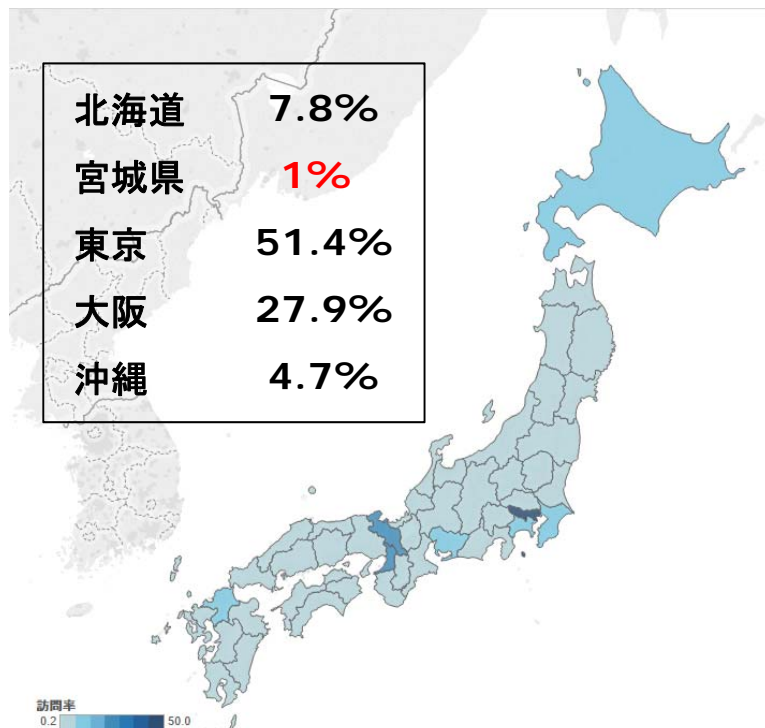
---

1. 東北の現状
2. 業界や企業のこれまでの取組み
3. 観光振興への課題と対応策
4. 結びに

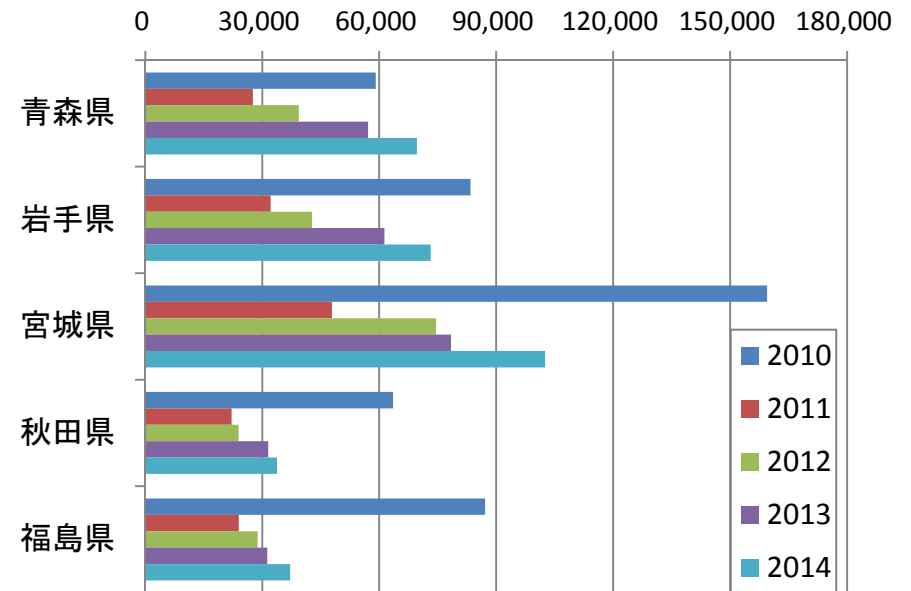
# 1. 東北の現状 - 訪日客の入込状況

- ✓ 訪日客の都道府県別訪問率をみると、宮城県は1%で、東北の他の5つの県は1%を下回る。
- ✓ 外国人延べ宿泊者数は、青森県以外は震災前の水準まで回復していない。

訪日客の都道府県別訪問率



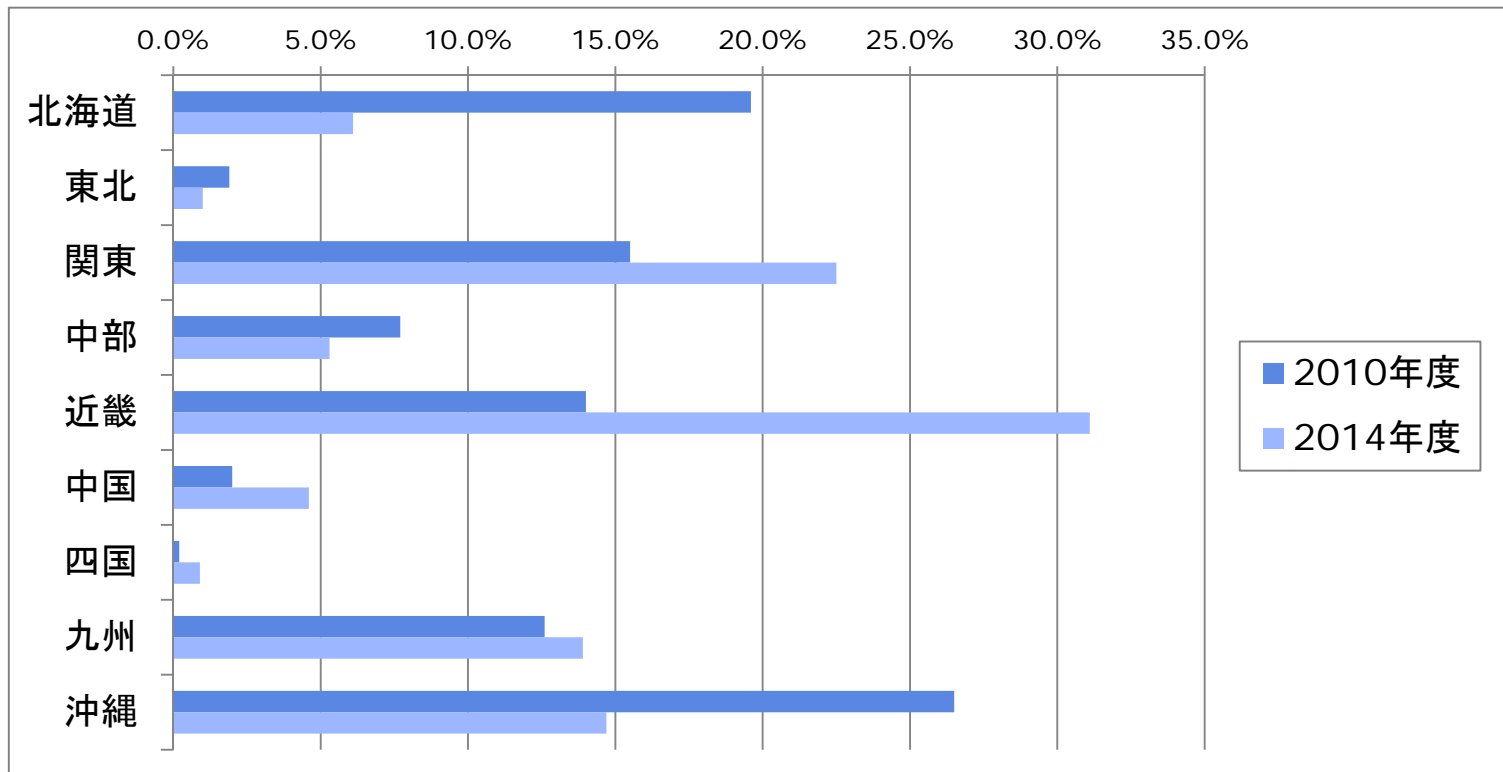
東北6県の外国人延べ宿泊者数



# 1. 東北の現状 - 修学旅行の訪問率

- ✓ 高校の修学旅行の地域別旅行先をみると、東北は他のエリアと比較して低い傾向
- ✓ 東北への訪問率は2010年度は1.9%、2014年度は1.0%と震災前の5割程度にしか戻っていない

## 高等学校 地域別旅行先



## 2. これまでの取組み (JATA)

### ① みちのく潮風トレイルを活用した「JATAの道プロジェクト」

#### 自然環境の整備活動を通じた地域活性

- ✓ 太平洋沿岸エリアの自然環境の整備活動を通じ、「自然景観の復興」や「生活文化の再生と向上」を目指す取組み
- ✓ 2014年4月から震災発生10年後の2021年3月まで長期的に実施

- みちのく潮風トレイルとは  
環境省が整備する東北地方太平洋沿岸地域のトレイルコース。青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦まで約700kmを範囲としている。
- 活動内容  
環境省「グリーン復興プロジェクト」と連携
  - ① みちのく潮風トレイルルートの一部の区間の整備や清掃活動、ウォークイベント
  - ② 活動区間における道標(マイルポスト)の設置



トレイルコースの体験



案内板の除幕式

長距離の自然歩道で、人との交流が生まれ、地域が活性化することを目指す

## 2. これまでの取組み（JATA）

### ② 東北復興支援プロジェクト「行こうよ！東北」

#### 各県の新たな魅力を発見するための取組み

- ✓ JATA会員全社の社員約1000名が28コースに分かれて東北6県を訪問
- ✓ 観光地の見学や体験だけではなく、現地の方々との意見交換会を行うコースも実施。

#### ■ 実施内容

実施日：平成24年12月3日（月）～12月4日（火）1泊2日

#### ■ 活動内容

東北6県に各県100～350名程度を派遣、実地踏査を実施。実地踏査をより有効にするためのセミナー・意見交換会を現地で行う。一部、ボランティア活動コースも設定

#### ■ 踏査内容

着地型や体験型旅行商品など新しい旅行商品造成のための、各県の新たな魅力の発見



上野駅結団式の様子



東北の復興状況を体感するとともに新観光スポットなどの情報を収集し、商品企画に活用するなど継続的な取組みに向けた活動

## 2. これまでの取組み（企業）

### ③ 東北復興デスクの開設 ボランティアサポートプロジェクト

#### ボランティア＋観光による経済活性化への貢献

- ✓ 現地を訪れて復興の手伝いをしたい方々と地元のボランティアセンターをつなぎ、ボランティア活動をサポート
- ✓ 観光を加えることで、地域経済活性化への貢献を目指したサポートを推進

#### 1 被災地復興支援

被災地での困りごとに対して、作業に従事し貢献

#### 2 観光による地域経済への貢献

観光施設の利用、宿泊、飲食、買い物を通じた、経済への貢献

震災から3年間で約100,000名が参加

ツアーを通して、参加者に東北の魅力を再発見してもらうことも目的



## 2. これまでの取組み（企業）

### ④ 杜の賑いの開催

#### 地域の祭りや伝統芸能を活用した観光振興

- ✓ 1982年から実施しているJTBオリジナルイベント「杜の賑い」を2年連続東北で開催。
- ✓ 地域における伝統文化の保護育成や若者達の創作芸能への芸術支援を通じ地域活性につなげる役割を担っている。

- 2012年10月 杜の賑い 福島  
原発事故の風評被害に苦しむ福島エリアの観光振興への貢献  
⇒ グループ全社で取組み、全国から約3,000名のお客様が鑑賞
- 2013年10月 杜の賑い 秋田・男鹿  
秋田県内に受け継がれる踊りや民謡だけでなく、阿波踊りや佐渡おけさなど、他県の芸能も紹介

地域の伝統芸能を磨き、国内外に発信することで  
地元の人々の誇り醸成にもつながっている



杜の賑い 福島

杜の賑い 秋田・男鹿



## 2. これまでの取組み（企業）

### ⑤ 音楽(おと)のある東北・ミュージック花火の開催

#### 有形文化財の活用したコンサートや新スタイル花火による観光振興

- ✓ 2013年から東北6県の有形文化財等を活用した復興支援のコンサートを行い、東北の元気を発信
- ✓ 全編音楽に合わせた新たな形の花火イベントをJRDCに合わせて実施し、地元参加型の観光振興の一翼を担っている

- 2013年6月から2015年9月まで 東北6県で15回の公演  
地域の有形文化財の活用によって、自治体・住民との共生を確立  
⇒ グループ全社で取組み、延べ約3,000名のお客様が鑑賞
- 2014年9月・2015年9月最上川 2015年5月福島  
ミュージック花火は、音楽シンクロのエンターテインメントショー  
⇒ 3回の実施で述べ約40,000名のお客様が鑑賞



最上川ミュージック花火2015



ふくしまミュージック花火2015

地域の新たな観光素材を見つけ出し、  
旅行商品への加工流通によって、地元の元気・力が誕生

## 2. これまでの取組み（企業）

### ⑥ JRを利用した「東北復興」への主な取組み



### 3. 観光振興への課題と対応策

## キーワード: ツーリズムの力で東北を元気に!

産業やなりわいの再生を更に進めるため、観光を柱に交流人口を拡大し、東北各県経済の活力増進に寄与する

1

#### 広域観光周遊ルート of 磨き上げ

- ✓ 東北ならではのイベントや伝統芸能や祭り、食などの地域の魅力を国内外に発信
- ⇒ 東北6県で連携し、継続的に取り組むことが重要

2

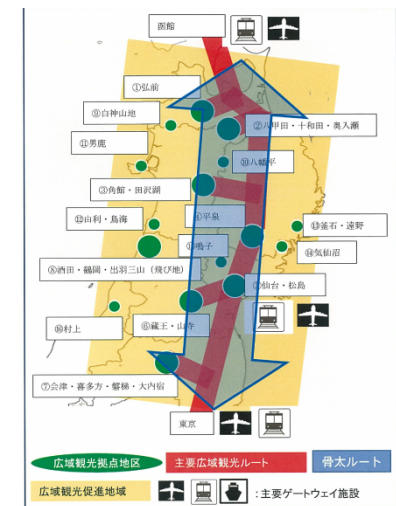
#### 教育旅行の誘致

- ✓ 修学旅行対応の受入整備および誘致に向けた教育委員会への働きかけ
- ⇒ 学生をリピーターにつなげていくことが重要

3

#### 仙台空港の国際化の推進

- ✓ 海外チャーター便の就航を含めた2ウェイ・チャーターを東北エリア全体で推進



### 3. 観光振興への課題と対応策

#### キーワード： プロモーションの切り口を変える

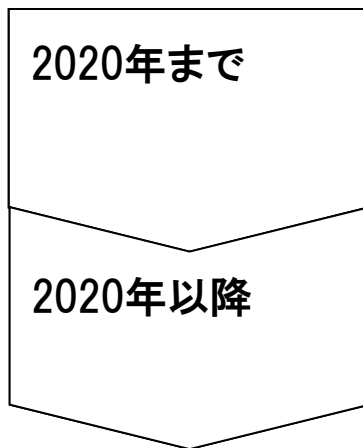
2016年、震災5年目を迎えるにあたり、「復興」という考え方から  
「元気な東北をアピールする」という考え方へのシフト

これまで	これから
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 復興</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 元気な東北をアピール</li></ul> <p>“新しい東北を見に来てもらう” = 東北の文化を再生する</p>

海外では、復興が進んでいることが伝わっていない国も。  
国内向けと海外向けのプロモーションの切り口を変えることも重要

### 3. 観光振興への課題と対応策

#### キーワード： 長期的な観点に立った観光振興



- ラグビーW杯 釜石にて開催決定
- 東京オリンピック・パラリンピック  
「復興五輪」の理念
- スポーツと文化で地域の振興を図る  
例) 関西ワールドマスタースゲームズ2021  
⇒ 東北を舞台に何をするか

観光振興に向けて、人を動かし、安定させるには時間を要する

単年度ではなく、長期的な時間軸で予算を確保し、  
産官で連携して進めていく必要性

## 4. 結びに

今後の対応策をゼロから議論するのではなく、  
これまでの各社の取組みをいったん総括し、そこから議論を始める。

これまでの東北の観光は「復興」がメイン。  
これからは、レジャーマーケットと教育旅行に対応する形で観光振興を。

広域観光周遊ルートを磨き上げ、  
多くの観光資源を持つ“東北”を国内外に発信し、元気な東北をアピール。